

高等教育活性化シリーズ 370 (通算 701 回)

2018 年 8 月 21 日 (火)

オープンサイエンスの情報基盤——

研究・実験データの保管・共有の推進方策

～改ざん防止／研究証跡の記録化／開かれた学術情報の活用～

- ※ 世界と日本の動向／「研究の再現性」担保／インフラ構築・整備／10 年ルール／研究助成機関の動き
- ※ N I I 研究データ基盤への誘い～管理・公開・検索／利用のイメージ／大学への導入方法
- ※ 大学における研究データの管理体制の位置づけ／複数部署連携体制の必要性／研究の現場を元気に！
- ※ [京大] 長期保存サービスの試行／体制とシステム／研究データM／持続可能なビジネスモデル
- ※ [パネル討論] プラットフォームと大学側の役割～参加者との交流／さて、貴学はどうする！！

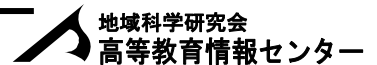
● 講師陣 ●

船守 美穂 氏 / 国立情報学研究所 (NII) 情報社会相関研究系 准教授
 NII オープンサイエンス基盤研究センター 政策・連携担当

込山 悠介 氏 / NII オープンサイエンス基盤研究センター 助教

青木 学聡 氏 / (国) 京都大学 情報環境機構 I T企画室 准教授

2018 年 8 月 21 日 (火) 剛堂会館 (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)



日 時 : 2018 年 8 月 21 日 (火) 10 : 00 ~ 16 : 40

会 場 : 剛堂会館 (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)
千代田区紀尾井町 3-27 TEL 03-3234-7362

アクセス : 東京メトロ有楽町線「麹町駅」1 番出口より
徒歩 4 分、または JR 中央・総武線「四ツ谷
駅」麹町口より徒歩 10 分

※受講証及び会場の地図の送付をもって参加受付となり
ますので、必ずご確認ください。

- 参加費 : A. ご一名 (資料代込) 40,000 円 (税込)
 B. メディア参加 (資料・音声 CD 送付)
 41,000 円 (送料、税込)
 C. 高等教育同人 (☆) 20,000 円 (税込)

- ※メディア参加とは会場に来られない方の参加形式で、開催後に当日配布資料及び音声 CD を送付します。
- ※なお、当日参加とともに、音声 CD をご希望の方には、特別割引いたしますのでお問い合わせ願います。
- ※参加費の払い戻しは致しません。申込者の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。
- ☆高等教育計画経営研究所同人は K K J の HP でご確認ください。

☆『平成 29 年度版 全国大学一覧』(最新版) 等発売中！詳細は K K J ウェブサイトで。

申込方法 : 参加申込書に所要事項を記入のうえ、
FAX または E-mail にてご送付ください。

支払方法 : 銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店	普通 1159880
三菱 UFJ 銀行神田支店	普通 5829767
三井住友銀行麹町支店	普通 7411658
郵便振替	00110-8-81660

口座名 < (株) 地域科学研究会 >
 ※ご請求なき場合は振込受領書を領収書に
 代えさせていただきます。

申 込 先 : 地域科学研究会・高等教育情報センター
 東京都千代田区一番町 6-4 ライオンズ第 2-106
 Tel: 03 (3234) 1231 Fax: 03 (3234) 4993 〒102-0082
 E-mail : kkj@chiikikagaku-k.co.jp
 HP : http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj/

研究会参加申込書

高等教育活性化シリーズ 370

年 月 日

研究・実験データの保管・共有の推進方策

(□に✓印を) □当日参加 □メディア参加
 支払方法 □郵便振替 □当日払い □銀行振込
 必要書類 □請求書 □見積書 □領収書

勤務先 _____

所在地 〒 _____

(書類宛名 _____)

連絡部課・担当者名 _____

TEL _____ FAX _____

メールアドレス _____

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
10:00) 11:30	<p>□ 世界と日本のオープンサイエンスと研究データ管理の動向 ～ 日本は研究データ管理にどのように向き合えば良いか? ～ 国立情報学研究所 船守 美穂</p> <p>1. 世界におけるオープンサイエンスの動向 (1) オープンサイエンスとは (2) オープンサイエンスの駆動力 (3) オープンサイエンスにおける研究データ管理の位置づけ</p> <p>2. 世界の研究データ管理を取り巻く動向 (1) 研究助成機関による要求 (2) 「研究の再現性」担保の必要性 (3) データ共有の基準としての FAIR 原則 (4) 研究データインフラ構築・整備の動向 (5) 大学における研究データ管理の支援体制 (6) 研究データ管理のトレーニングコース</p> <p>3. 日本における研究データ管理の動向 (1) 日本のオープンサイエンスに関わる政策動向 (2) 日本の研究助成機関の動き (3) 日本の研究不正防止への対応と研究データ 10 年保存ルール (4) 日本の研究データインフラ構築・整備の動向 〈質疑応答〉</p>
11:40) 12:40	<p>□ 国立情報学研究所 (NII) 研究データ基盤への誘い ～ 大学における研究活動の加速と再現性の確保を実現 ～ 国立情報学研究所 込山 悠介</p> <p>1. NII 研究データ基盤の紹介とデモ (1) NII 研究データ基盤 (管理・公開・検索) の概要 (2) 研究データ管理基盤 (GakuNin RDM) (3) 研究データ公開基盤 (WEKO3, JAIRO Cloud) (4) 研究データ検索基盤 (CiNii Research)</p> <p>2. NII 研究データ基盤の利用と導入 (1) 研究現場における利用イメージ (2) 機関における導入と利用イメージ (3) 大学への NII 研究データ基盤の導入方法 (情報基盤センターとの連携) 〈質疑応答〉</p>
13:40) 15:10	<p>□ [京都大学] 研究データ長期保存サービスの試行と推進方策 ～ 管理のためのデータ保存からのオープンサイエンスのためのデータ共有へ ～ 京都大学 青木 学聡</p> <p>1. 研究公正維持のためのデータ保存 (1) 大学に課せられたデータ保存義務 (2) 組織的な研究データ保存の取り組み-体制 (3) 組織的な研究データ保存の取り組み-システム</p> <p>2. オープンサイエンスに向けた研究データマネジメント (1) データ保存は「コスト」? (2) 研究データマネジメントとは (3) オープンサイエンスと大学</p> <p>3. 大学での研究データマネジメントをどう進めるか? (1) 研究データに関わるステークホルダ (2) データマネジメントのための持続可能なビジネスモデル (3) データマネジメント教育 (4) 取り組み事例とまとめ 〈質疑応答〉</p>
15:20) 15:50	<p>□ 日本の大学における研究データ管理体制の整備 ～ 複数部署の連携体制をどのように実現する? ～ 国立情報学研究所 船守 美穂</p> <p>1. 大学における研究データ管理体制の位置づけ (1) 大学における研究データ管理の位置づけを考える (2) 大学におけるオープンサイエンスへの対応のあり方 (段階別) (3) 大学でオープンサイエンスに関連してリーダーシップをとるのは誰か? (4) 複数部署連携体制の必要性</p> <p>2. 大学における研究データ管理のための体制整備 (1) 大学におけるオープンサイエンスポリシー (特にデータポリシー) の必要性 (2) 日本の大学における研究データ管理体制のあり方 (案) (3) 研究の現場を元気にする、研究データ管理の導入をしよう! (4) モデルケースとなる大学・部局の募集 〈質疑応答〉</p>
16:00) 16:40	<p>□ [パネル討論] 研究データ管理のプラットフォームと大学側の役割 ～ 参加者との情報共有・交流の中で ～</p> <p>司 会 青野友太郎 パネリスト 船守 美穂氏/込山 悠介氏/青木 学聡氏</p>